

また私の出身校では大正時代洋装が一般的ではなく背広を着こなすのも教養のひとつでしたので、男子の制服は背広でした。K学園でも最初になぜマフラーの色を例えば白に決めたのか教えるべきだったのではありませんか。

●生徒C：学校の気品とは何か、いますぐ教えてください。

●先生達：……

●主婦A：私は子供が4人いるのですが、上の子の時に大変だったので、下の子は制服なしの私立に入れました。規則は殆どありませんが問題など無いですよ。学校が子供を信じて自主性を持たせれば、子供は自分で判断します。

●主婦B：私は72歳ですが戦前ミッションスクールに通いました。制服はありましたが洗えて丈夫なものという事でした。いいものですよ、制服は。

●生徒A：僕の聞いたことに答えて無い。

●会社員（男性A）：だったら誰が責任を取るかということなんだ。生徒が責任取れるか。先生だろ責任取るの。

●生徒A：そんなのおかしい。僕が取る。

（以下抜粋）

●生徒B：僕は本当は理系に行きたかったのに、文科の申請を出してから気が付いたんです。

●生徒C：なぜ大学に行くのか分からない。

●主婦A：親だってちゃんと分かってなんか無いのよ。私も上の子の時先生に「この子は将来数学で大成するかも知れない」と言われてもう何か何でもこの子をいい学校に！って張り切って、子供が「コンピューターの仕事がしたい」と言うのを聞かず、親子ゲンカを繰り返しようとう3年無駄にしたの。今年からその子は専門学校に通ってるけど、私が奪わな

かったらその3年にコンピューターですごい事してたかも知れないと思うと胸が痛むわ。

●生徒A：社会には学歴や男女差別とかあって、就職するにもそれが影響するそうだけど、クリアするにはどうしたらいいか。

●会社役員E：私は公立高校でタバコを吸って、私立高校に転校した。また卒業した年は不況でまたまた不採用。それで自分で会社（経済研究所）を創った。怖がることはない。

●会社員（女性A）：私は女性だからといって何も問題になんかしない。他人の評価など気にする必要はないわよ。自分が好きなもの・美しいと思うものを見つけるために、沢山の素晴らしい人に出会って感動することよ。

●教師R：私は私立学園の初等科教師です。雑誌モクを読んでこの会を知ったが、生憎運動会で駄目だと思っていたら、この雨。いても立ってもいられず校長に話して飛んで来ました。反省会に顔を出さないと他の教師がうるさいから内緒です。うちの学校もいいがまだ足りない。私は新しく教育改革をします。第2小学校を創るつもりです。

それから君、いい本を読んで感動することだ。君は今日得をしたな。自分ばかり話さず隣の友達にも話させろ。そしたら君は素晴らしくなる。

（あとがき）

出席者は、高校3年生7名・中学1年生1名・小学5年生2名・K学園先生8名・一般26名（教師1名・塾教師1名含む）・報道関係2名（学研1名・日本教育新聞1名）。以上計46名。

また、5月22日付け毎日新聞朝刊23面東京版に記事が、月刊MOKU5月号にも掲載されました。

5月24日の21世紀のライフスタイルを考える会「教育シンポジウム」に参加して

世田谷区 澤井正治

【講演演題】感性を生かすホリスティック教育

【講師】明星学園・高橋史郎氏

ホリスティック教育ということですが、ホリスティックというのは全人的とか、全体的と訳されています。私ども医学会、薬学会にあっては、近年このホリスティックな医療が提唱されています。即ち、西洋医学だけでは、患者の良くなるという意欲、医師側の治してやろうという意欲、それらが空回りすることが多いのです。というよりも、精神的な力では治癒力は増さない、という観念が西洋医学ではあるようにも窺えます。

逆に東洋医学は、薬物などの物理的な療法よりも、患者の治ろうという意欲、あるいは身体が持っている自然治癒力、あるいは患者を取り巻く環境、これらを快方に向けて最大限発揮させようとするものです。このホリスティックという定義に従うならば、教育を受ける側も施す側も全身全霊で、ことに当

らなければならぬ、ということになります。

シンポジウムで感じたことは、我々、大人世代と学生（子供たち）とは明らかにギャップがあり、共通言語から作っていかないと議論が噛み合わないと言え思いました。私の印象で言い切ってしまうと、彼らは規範を求めています。私を含め、戦後世代あるいは戦前の敗戦経験を経た人は絶対真や絶対的価値に懐疑的になってしまいました。

しかし、臆することなく、大人は大人の価値観を押しつけるのではなく、提示してやる必要はあります。しかし、それは最低限の提示で、どれを選ぶか、あるいは選ぶ価値さえない、とすれば自分で創造するしかない、とまで言ってやる必要があるように思いました。国粹主義者ではありませんが、自国の国旗や国歌に敬意を払えないような子供を作り続けて良い訳はありません。個性を育てるのは別問題です。ということを考えさせられた一日でした。